

第1回三重県教育改革推進会議（7月13日）の意見概要

1 高校教育を取り巻く環境の変化や課題

- 本県には幅広い産業分野があるため、さまざまな分野の人材ニーズがある。一方で全ての産業分野で人材が高齢化していることから、職人等の専門人材の育成が求められる。
- 社会はイノベーションを起こし、周囲を巻き込んで新しい価値を提供することのできる人材を求めている。その意味からアクティブ・ラーニングは重要なキーワードになる。
- コミュニケーション能力については、自分が言いたいことを言う力よりも、相手の言いたいことを把握する力、相手にとって重要な順序で話す力が重要であると言われている。相手が何を考えているかを感じることのできる学習や教育環境が必要である。
- これからの高校教育には、地域のことと世界のことの双方を考える力の育成など総合性が求められる。
- 基礎学力が定着していない大学生が増加している。基礎学力の定着を高校教育の課題として認識するべきである。
- 特別な支援を必要とする生徒が増加していることから、これらの生徒たちに対する配慮が必要である。

2 県立高等学校の特色化・魅力化の方策

- 次期活性化計画では中高連携についてもその方策を明確にするべきである。
- 次期活性化計画では再編統合よりも、活性化に重点をおくという考え方、活性化の手法の一つとして再編統合があるという考え方に賛成である。
- アクティブ・ラーニングや課題研究を進展させるなど、学びの質の転換を進めるべきである。
- 国では英語教育の改革が進められている。県としても指導方法の転換等、何らかの施策を進めていく必要がある。
- 高校生がNPO等に行き、社会の課題に直接触れる経験を積むことが必要である。
- 高等学校の活性化を検討するにあたっては、高校生の意見やアイデアも聴くべきである。
- 社会から求められる能力は、スポーツの中で培われるものが多い。高校教育においても、専門的な指導者の配置など部活動に力を入れて欲しい。

- 学校が地域を活性化していく取組を充実させていく必要がある。
- 四日市高校では、スーパー・グローバル・ハイスクールの取組の中で、講義と討議を組み合わせた授業を進めることによって、生徒の学ぶ意欲の向上や質の高い理解につながった。教員の教え方、生徒も学び方についても今後変えていく必要がある。

3 県立高等学校の規模や配置の考え方

- これまでは高等学校には一定の規模が必要という考え方が原則であったが、現在それに加えて地域活性化の観点も求められている。しかしながら、教育の質を確保する観点からは、小規模校を全て残して良いということではなく、地域の特性と結びつけて考える必要がある。
- 子どもたち一人ひとりの自己実現や教育機会の保障が大事である。生まれた場所によって、学校の選択肢が著しく異なることのないようにするべきである。